

発行：日本リスク研究学会(The Society for Risk Analysis: Japan-Section)

会長：横山 栄二

事務局：〒305 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学社会工学系 池田研究室

発行責任者・池田 三郎

TEL. 0298(53)5380 FAX. (55)3849

編集・中村 豊

--- 目次 ---

- 1。年次総会・春季講演シンポジウム案内
- 2。第4回研究発表会の日程と企画テーマの募集について
- 3。第3回研究発表会報告
- 4。第6回理事会報告
- 5。学会誌第3号原稿(論文・短信)募集
- 6。SRA年次学会の参加報告
- 7。関連学会・講演会の案内
- 8。会員状況と新会員(1990年9月以降)

1。年次総会・春季講演シンポジウムの案内

1991年度の年次総会(第2期2年度)と第4回の春季講演シンポジウム(エネルギー・リスク問題)を下記の要領で開催することになりましたのでご案内いたします。

趣旨：地球規模の環境汚染や気候温暖化にともなう環境リスク問題が1990年代の人類の生存にとって最も重要な課題の一つとして浮かび上がってきています。昨年度の自然災害リスク問題のシンポジウムに引き続いて、地球環境問題の解決のため根幹をなす「エネルギー・リスク問題」について学際的な立場から基本的な整理を行なうことを企画しました。地球環境汚染の視点からエネルギー問題を解決する為にリスク研究がどのように貢献できるのか、第一線で活躍されている関係者にお集まりいただき、その可能性と条件を議論する予定です。

日時：1991年6月2日(土)：12：30-17：00

年次総会：12：30-13：00

講演シンポジウム：13：00-17：00

場所：東京大学山上会館(東京都文京区本郷2丁目)

テーマ：エネルギー問題をリスクの視点から考える

内容：特別講演 座長 天野博正(電力中央研究所)

茅 陽一(東京大学)：エネルギー問題におけるさまざまなリスク

佐藤一男(原子力研究所)：原子力分野におけるPSA研究の現状と課題

パネルディスカッション 司会 大塚益比古(エネルギー総合研究所)

パネラー 近藤駿介(東京大学)、末次克彦(日経新聞)他数名を交渉中

## 2. 第4回研究発表会の日程と企画テーマの募集について

1991年度の学会研究発表会を下記の日程で行うことになりました。事務局では年会の企画テーマを募集します。企画セッションのテーマ、趣旨、発表予定者をA4用紙1枚にまとめて事務局までお寄せ下さい。(締切 3月末日)

日時：1991年11月29日(金) - 30日(土)

場所：東京(適当な会場を探しています)

## 3. 第3回研究発表会報告

日本リスク研究学会主催の第3回研究発表会は既報のとおり1990年11月30日(金)12月1日(土)の両日、国立公衆衛生院(東京都港区白金台)で開催されました。生憎く初日は台風による雨にたたられましたが両日の参加登録者は約100名で、熱心な講演と活発な議論が行なわれました。特別講演として、大島輝夫氏(日本化学物質安全情報センター)からOECDと米国を中にした化学物質のリスク管理の国際動向の講演がありました。

各研究発表は3つの企画セッションと2つの一般セッションに分けられ、合計19編の研究論文が発表された。企画セッションでは「事前対応型リスク管理」、「リスクアセスメントと基礎科学の接点」、「製造物責任リスクの分散」を取り上げました。

一般セッションではリスク評価モデルと評価方法論ならびにリスク便益・費用に関する研究の5件が報告された。研究発表会での講演は約90頁の講演論文集として発行されています。講演論文集はリスク研究の1次資料として非常に有益な文献となるものです。講演論文集はまだ余部がありますので必要な方は事務局まで申し込み下さい。(一部2,000円+送料210円)以下は講演論文集の内容上巻。

### 1990年度 日本リスク研究学会 第3回研究発表会

#### 論文集 Proceedings of the 3rd Annual Conference, 1990

1990年11月30日(金) 10:00 - 17:00

12月 1日(土) 10:00 - 15:00

国立公衆衛生院講堂(東京都港区白金台 4-6-1)

#### 第3回日本リスク研究学会研究発表会論文集の内容

11月30日(金)

セッション1 (リスク推定と評価モデル) 司会 小林定喜(放医研)

階層分析法を用いたリスク比較法に関する考察:

甲斐倫明、斉藤史郎、草間朋子(東京大) . . . 1

パラメータが確率密度分布を示す集団のリスク推定モデル:

佐久間美明(東京水産大) . . . . . 4

ディーゼル排出ガスのリスク試算: 岩井和郎(結核研究所) . . . . . 10

頁

セッション2	(リスク費用・便益)	司会 酒井泰弘 (筑波大)	
化学物質規制におけるコスト-ベネフィット分析法の応用について:			
		内山巖雄、横山栄二 (国立公衆衛生院)	13
T B T化合物のリスクと便益の分析-大阪湾の事例研究:			
		Cho Hyeon-Seo、盛岡通、末石富太郎 (大阪大)	19

セッション3	(事前対応型リスク管理)	司会 北島佳房 (筑波大)	
環境資源利用と事前対応型リスク管理 (レビュー):			
		北島佳房 (筑波大)	25
環境質変動と公共サービス: 秋山紀子 (青山学院女子短大)			
			32
リスク管理に果たす保険企業の役割: 大西一元 (東京海上火災)			
			36
都市水系の環境リスク評価とリスク対話支援システム:			
		前田恭伸、池田三郎 (筑波大)	40

特別講演		司会 横山 栄二 (国立公衆衛生院)	
化学物質のリスク管理の国際動向 大島輝夫 (日本化学物質安全情報センター)			
			46

12月 1日(土)

セッション4	(リスクアセスメントと基礎科学の接点)	司会 林裕造 (国立衛生試験所)	
リスクアセスメントの科学的基礎 (レビュー):			
		加藤 隆一 (慶応大)	52
遺伝子から発ガンのリスクは予知できるか? :			
		黒木登志夫 (東京大)	54
食品成分とリスクアセスメント: 斉藤 行生 (国立衛生試験所)			
			57
暴露データを適用した農業の発ガン性評価の試み:			
		関沢 純 (国立衛生試験所)	62

セッション5	(製造物責任リスクの分散)	司会 朝見 行弘 (福岡大)	
製造物責任とリスクの分散 - 経済学の立場から:			
		中島 巖 (専修大)	68
法律学の立場から:			
		森島 昭夫 (名古屋大)	75
製造物責任保険によるリスク分散: 栗山泰史 ((株)安田総合研究所)			
			76
リスク情報提供効果の計測-医薬品リスクの軽減行動に与える影響: 池田三郎 (筑波大)			
		盛岡通 (大阪大) 西村周三 (京都大)、山本康正 (帝京大)	82

#### 4. 第6回理事会議事録(案)

日時： 1990年11月30日(金) 12:15 - 13:30

場所： 国立公衆衛生院、第1会議室(2階)

出席者：横山、木下、天野、池田(三)、石崎、加藤、北畠、草間、小林、酒井、末石、鈴木、田中、中村、内山 各理事

(1) 前回議事録の確認：確認された。

(2) 新会員の承認

資料1にもとづいて池田理事(事務局)から説明があり、正会員25名および1社の賛助会員の入会が正式に承認された。

(3) 第4回春期講演シンポジウムの企画

草間理事より以下のような平成3年度春期講演シンポジウムの企画案が提案された。

テーマ：エネルギー問題をリスクの視点から考える

日時：1991年6月29日(土曜日) 13:00 - 17:00

場所：東京大学山上会館

内容：特別講演 座長 天野博正

茅 陽一：エネルギー問題におけるさまざまなリスク

佐藤一夫：原子力分野におけるPSA研究の現状と課題

パネルディスカッション 司会 大塚益比古

パネラー 近藤駿介、末次、中村(交渉中)、その他2人

これに対し、事務局より、年次総会の時間として特別講演の前に30-40分取れるよう考慮してほしいとの要望があった。また、時間的制約からパネラーを4人にした方がよいとの提案があり、基本的には日程も含めて企画案は承認されたが、天野、草間両理事に今後さらにパネラーの人選など検討していただくこととなった。

(4) 第4回研究発表会の企画

第4回研究発表会は東京で開催することになった。企画委員は未定であるが、まだ企画委員になっていない理事の方をお願いすることになるが、事務局で案を練ることで了承された。また、関西の会員数が少ないので、来年は関西の会員を増やすように務め、再来年の第5回研究発表会は関西で行なうことが了承された。

(5) 学会誌第3号と会誌発行財政

事務局より、来年度から学会誌を年2回発行する案が提案された。このためには、会費収入を200万円にしないと困難なため、学会費を増額するか、会員増をはかる必要があり、また、論文編集に関してco-editor制を導入する必要があることが提案された。末石理事より、発行できる余力があるときだけ2回発行し、困難なときは1回でもよく、予算、質、量に応じて柔軟に対応していけばよく、すぐに会費の増額はしないほうがよいことが指摘された。議論の結果、この件に関しては来年度は多少赤字覚悟で2回発行する方向で努力し、同時に学会財政の増強も事務局で検討することとなった。

(6) その他

事務局より関連学会等の情報を知らせていただけるよう、各理事に要望がだされた。SRA(親学会)の理事会には当学会から推薦された池田理事が当選し、SRAの年次大会と理事会に出席したこと、また、将来、日米欧共同でシンポジウムを開催したり、SRAから講師を招くことなど協力を強めることがSRAの現会長(C. Travis)と話し合われたことが報告された。

## 5. 学会誌第3号原稿(論文)募集

当学会では今年6月に日本リスク研究学会誌第3号の発刊を予定しております。第3回研究発表会での講演を中心に編集する予定ですが、会員の皆様の研究成果やご意見も下記記の要領でまとめて投稿していただけるようお願いいたします。特に、「リスク」問題に関して会員の皆様が日頃お考えのご意見を「研究短信」としてまとめていただき、できるだけ数多く掲載する予定ですので奮ってご寄稿下さい。

- (1) 原稿締切 : 1991年 2月28日(研究論文)  
3月31日(寄稿論文、研究短信)
- (2) 原稿枚数 : 研究論文 8頁以内、寄稿論文 1~6頁、研究短信 1~2頁  
なお、規定ページ数におさまった場合は掲載料は無料としますが、超過した場合は、超過したページ数に応じて印刷等に係わる費用を負担していただくこととなります。
- (3) 論文別刷 : 100部以上50部単位で、有料にて申し受けいたします。
- (4) 原稿サイズ : 1ページにつき40行22字詰(図表等すべて含む)
- (5) 採否の決定 : 寄稿論文及び短信は査読を行わず、編集委員会が採否を決定いたします。研究論文は複数(2名程度)の査読者による審査結果にもとずいて、論文編集委員会が採否を決定いたします。
- (6) 投稿要領 : 日本リスク研究学会誌に記載の投稿規程を熟読の上、投稿して下さい。
- (7) 執筆要領 : 日本リスク研究学会誌に記載の原稿作成要領を熟読の上、原稿を作成して下さい。また、第3号の各論文、短信の体裁も参考にして下さい。

## 6. SRA年次学会への参加報告

(池田三郎: 筑波大学)

SRAの1990年の年次大会が10月8日から3日間の日程で南部のNew Orleansで行なわれました。米国南部のメキシコ海岸で開催されることでもあり、学会の理事会にも参加する必要があり出かけました。例年通り約50近いセッションからなり、5-6の分科会が同時進行するという大きな学会でした。昼食時には、ゲスト・スピーカーの講演を聞きながら会食する(400名)という日程でした。今回のスピーカーはMilton Russell, 前EPA次官、("Lessons from the National Acid Precipitation Assess. Program")とBrooke Mossman, Vermont Univ. ("Risks from Asbestos")で、必ずしも専門家でない参加者に理解しやすい解説と課題を、特に、行政と科学の狭間におけるリスク分析と管理の豊富な経験を各々ニューモアをまじえて聞くことができました。

今回の学会では特に、地方自治体(州政府)や一般市民(環境保護団体)の参加を数多くみかけ、"Risk Communication Round Tables"という3日間にわたる環境・技術リスクのコミュニテイ・レベルでの様々な課題を実際の事例に基づいて徹底的に討論していました。そのほかの主要な大会の特徴は以下のSRA newsletterに記されています。

次回のSRA学会はWashington, DCで12月中旬の予定です。

## Council Meetings

The final meeting of the 1989-90 SRA Council will also be held on Sunday, 1:00 to 4:00 PM. The 1990-91 Council will hold its first meeting on Tuesday, 7:00 to 9:00 PM.

## Plenary Session

The speaker for the Monday morning plenary session will be Norman C. Rasmussen, McAfee Professor of Engineering in the Department of Nuclear Engineering of Massachusetts Institute of Technology. During the session he will be awarded SRA's Distinguished Contribution Award. (See separate story.)

## Business Meeting

On Monday at 5:00 PM the Society will hold its annual business meeting, at which the president's gavel will be transferred from John Garrick to Curtis Travis. The results of the recent elections will also be announced and committee reports and business matters requiring membership action will be presented.

## Organization of Divisions

Immediately following the business meeting, four meetings will be held to organize four Society divisions within the areas of Engineering, Health, Social Sciences, and Policy and Regulatory Analysis. (See page 3.)

## Breakfast for New Members

The traditional continental breakfast for new members and SRA officers will be held between 7:00 and 9:00 AM Tuesday.

## Luncheon Speakers

At a Tuesday luncheon banquet, Milton Russell, former assistant administrator of the EPA's Office of Policy, Planning and Evaluation and currently in a joint appointment at The University of Tennessee and Oak Ridge National Laboratory, will speak on "Megascience for Decisions: Lessons from the National Acid Precipitation Assessment Program (NAPAP)." On Wednesday the speaker will be Brooke T. Mossman, associate professor in the Department of Pathology at The Uni-

## Annual Meeting Schedule

### Sunday, Oct. 7

- 8:30 AM - Short Course (Haimes, Kaplan)
- 1:00 PM - Short Course (Cox, Wilson)
- 1:00 PM - 1989-90 Council Meeting
- 4:00 PM - Registration
- 5:00 PM - General Reception

### Monday, Oct. 8

- 8:00 AM - Registration
- 9:00 AM - Plenary Session
- 10:30 AM - Morning Sessions
- Noon - Lunch Break
- 1:30 PM - Afternoon Sessions
- 5:00 PM - SRA Business Meeting
- 6:00 PM - SRA Division Meetings

### Tuesday, Oct. 9

- 7:00 AM - New Member Breakfast
- 8:00 AM - Registration
- 8:30 AM - Morning Sessions
- Noon - Luncheon Banquet
- 1:30 PM - Afternoon Sessions
- 5:00 PM - Global Risk Analysis Section Meeting
- 7:00 PM - 1990-91 Council Meeting

### Wednesday, Oct. 10

- 8:00 AM - Registration
- 8:30 AM - Morning Sessions
- Noon - Luncheon Banquet
- 1:30 AM - Afternoon Sessions

featured on Monday and Tuesday, and five additional sessions directly identified as risk communication sessions will be scattered throughout the meeting. In addition, one session will address public perceptions, one will focus on public concerns, and a third will discuss protecting the public.

**Methods Development.** Improving risk analysis methods and investigating their interdisciplinary applications is another topic of widespread interest. The program includes sessions on such topics as probabilistic risk assessment (originated in the nuclear industry), expert systems, pharmacokinetic models, multimedia modeling, cancer risk assessment models, and non-carcinogenic risk assessment models, together with related sessions on organizational factors, decision making, acceptable risk, biomarkers, uncertainties, use of data in models, dose-response relationships, and ethical and social issues in risk assessments.

**Regulatory Effects.** A driving force for organizing the SRA was its potential for providing the government and/or public with scientifically based information on specific risks subject to regulation, together with estimates of their social and economic effects. Several types of regulations will be examined at the annual meeting, including the Clean Air Act, the Safe Drinking Water Act, SARA Title 3, Louisiana's Hazardous Waste Tax Program, California's Proposition 65 and its Birth Defects Prevention Act of 1984, food labeling, and current and future regulations of risk in Japan.

**Specific Risk Assessments.** The meeting will also include numerous papers reporting specific applications or potential applications of risk analysis methods. The subjects include major oil spills, dioxin, hazardous waste disposal (nuclear, mixed, and medical wastes), nuclear emergency planning, nuclear force reductions, Superfund cleanups, passive tobacco smoking, ecological risks, computer network risks, chemical accidents, fungicides, genetically engineered microorganisms, economic evaluations, and many others.

versity of Vermont, who will discuss "Risks from Asbestos Exposure." (See separate story.)

## Global Risk Section

SRA's only topical section, the Global Risk Analysis Section, will hold a meeting at 5:00 PM on Tuesday.

## Program Overview

Because a principal goal of SRA is to facilitate interactions among all disciplines engaged in risk analysis, the Society continues to field a large number of papers in numerous concurrent sessions. In general, the papers fall into the following four categories.

**Risk Communication.** Improving the communication of risks to the public is a topic that will be explored in a number of sessions at the annual meeting. Five sessions titled "Risk Communication Roundtable" will be

## 7. 関連する学会・講演会の案内



### 1st IAWPRC Symposium on Hazard Assessment and Control of Environmental Contaminants in the Water

Prof. Saburo Matsui,

Chairman of the Organizing Committee

Kyoto University,

Laboratory for Control of Environmental Micropollutants,

1-2 Yumihama, Ostu City, Shiga, Japan 520

#### OBJECTIVES

This Symposium provides a forum for scientists and engineers to discuss control strategies and practical solutions for controlling hazard substances in the water environment. A wide range of hazardous substances is considered, such as organohalides, nitrocompounds, polyaromatic compounds, heavy metals, and radioactive substances.

#### TOPICS AND SCOPE

The following topics are selected.

**1. Contamination of water by chemical substances:**

Sources and distribution of xenobiotics in river and lake water, estuary and coastal water, rain water, ground water and drinking water.

**2. New methods of analyzing and monitoring micropollutants, and their application to various waters:**

**3. Hazardous assessment of xenobiotics on ecosystems:**

New biological methods to evaluate toxic effects on the ecosystem, including interactive complex effects of chemicals on biological systems and ecological models that evaluate transport and bioconcentration of hazardous substances.

**4. Risk assessment of toxic substances on man:**

Extrapolation of risks from the results of biological test systems and epidemiological and statistical assessments.

**5. Control and decontamination of hazardous substances in the water environment by new engineering methods:**

Decontamination of bottom sediments in the various water environment; genetic engineering and its application to bacterial systems to decompose xenobiotics.

**6. Policies and strategies for control of hazardous substances:**

International organizations' views and different national policies.

#### VENUE/LANGUAGE

The symposium will be held in Lake Biwa Research Institute of Shiga Prefecture, Otsu City, Shiga, Japan. The language for presentation and discussion of all papers will be English.

#### CALL FOR PAPERS

The scientific program consists of plenary sessions, invited lectures oral papers, and poster presentations. Paper selection is based upon judgement of abstracts (1000 words) submitted not later than 28 February 1991. Authors will be informed of acceptance of their submitted papers and the form of presentation (oral or poster). Full written papers for both oral and poster presentation must be submitted in the form of camera-ready papers (less than 5000 words), and not later than 31 July, 1991. Selected papers will be published in the IAWPRC journal, Water Science & Technology after the 1st Symposium is held. Preprints of the submitted papers will be prepared as a Proceedings for attendees at the Symposium.

#### DEADLINES AND KEY DATES

28 Feb.1991	Dead line for submission of title and abstract(1000 words)
30 Apr.	Notification of acceptance of papers
31 May.	Issue of second announcement
30 Jun.	Dead line for registration with discount
31 Jul.	Dead line for submission for camera ready papers(5000 word)
25-28 Nov.	Symposium
28-29 Nov. 1991	Technical excursion for Toyama and Kamioka

#### TECHNICAL EXCURSION

Technical excursion is planned for the afternoon of 28 November 1991 and all day on 29th November 1991. Visits are the museum of the ITAI-ITAI disease (Cd-related disease) in Toyama and the wastewater treatment facilities of Mitsui Mining and Smelting Company in Kamioka. If the number of participants does not reach to 35, the technical excursion will not be held. The tentative excursion fee is Japanese Yen 28,000 per person including three meals, hotel accomodation, and bus charter.

8. 会員状況と新会員 (1990年 9月以降)

会員状況 (1990年6月1日 - 1990年11月30日まで)

	継続	新規入会	退会	合計
正会員	214 (189)	25 (27)	4 (2)	235 (214)
準会員	5 (5)	2 (0)	0 (0)	7 (5)
賛助会員	10 (6)	3 (4)		13 (10)
日本NUS (株)		安田火災海上 (株)		
チバガイギ (株)		大東京火災海上保険		
J R東海 (株)		(株) 日本総合研究所		
電力中研 (財)		東京電力 (株)		
動燃事業団 (東海)		新規: 日本RA-DAR協議会		
東京海上火災 (株)		(株) リスクマネージメントセンター		
		日本モンサント (株)		
合計	229 (200)	30 (31)	4 (2)	255 (229)

新会員

二木	義郎	N I C	環 境	シ 工	ス 学	テ 研	ム 研	所	物 質	工 学	学 科	
近藤	悟平	(財 横)	未 立	工 学	工 学	学 部	学 部	物 質	工 学	工 学	工 学	
浦野	幸一	横 横	大 大	大 大	大 大	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
藤江	陽一	三 三	日 日	日 日	日 日	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
上原	孝夫	(社 大)	立 立	立 立	立 立	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
向山	輝博	東 東	日 日	日 日	日 日	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
大加	明勸	大 大	立 立	立 立	立 立	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
山田	恭義	東 東	日 日	日 日	日 日	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
前富	仲人	大 大	立 立	立 立	立 立	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
高橋	治久	環 境	航 空	(株)	(株)	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
吉田	慶徳	エ 京	ル イ	画 調	画 調	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
柴田	和重	大 大	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
中井	斌	エ 京	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
中越	頭書	大 大	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
三宇	邊野	大 大	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
志武	市	日 日	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
(協助)	武	大 大	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
(協助)	佐	日 日	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	木	登 録	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	住	筑 波	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	辺	大 大	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	本	学 学	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	村	社 会	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	田	科 学	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	高	系 全	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	北	セ ン	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	高	ン タ	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	村	ー ト	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	田	博 士	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	高	課 程	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	北	セ ン	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	高	タ ー	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	村	食 品	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	田	本 部	ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	
	高		ル イ	一 環	一 環	学 学	学 学	物 物	物 物	工 工	工 工	



訂正 : 年次総会・講演シンポジウムの日時  
1991年6月2日 を 1991年6月29日(土)へ

S R A — J A P A N ニュースレター

Volume 3, Number 4.

January, 1991

発行: 日本リスク研究学会(The Society for Risk Analysis: Japan-Section)  
会長: 横山 栄二  
事務局: 〒305 つくば市天王台 1-1-1  
筑波大学社会工学系 池田研究室 発行責任者・池田 三郎  
TEL. 0298(53)5380 FAX. (55)3849 編集・中村 豊

--- 目 次 ---

1. 年次総会・春季講演シンポジウム案内

1. 年次総会・春季講演シンポジウムの案内

1991年度の年次総会(第2期2年度)と第4回の春季講演シンポジウム(エネルギー・リスク問題)を下記の要領で開催することになりましたのでご案内いたします。

趣旨: 地球規模の環境汚染や気候温暖化にともなう環境リスク問題が1990年代の人類の生存にとって最も重要な課題の一つとして浮かび上がってきています。昨年度の自然災害リスク問題のシンポジウムに引き続いて、地球環境問題の解決のため根幹をなす「エネルギー・リスク問題」について学際的な立場から基本的な整理を行なうことを企画しました。地球環境汚染の視点からエネルギー問題を解決する為にリスク研究がどのように貢献できるのか、第一線で活躍されている関係者にお集まりいただき、その可能性と条件を議論する予定です。

日時 : 1991年6月29日(土) : 12:30-17:00

年次総会 : 12:30-13:00

講演シンポジウム : 13:00-17:00

場所 : 東京大学山上会館 (東京都文京区本郷2丁目)

テーマ: エネルギー問題をリスクの視点から考える

内容: 特別講演 座長 天野博正(電力中央研究所)

茅 陽一(東京大学): エネルギー問題におけるさまざまなリスク

佐藤一男(原子力研究所): 原子力分野におけるPSA研究の現状と課題

パネルディスカッション 司会 大塚益比古(エネルギー総合研究所)

パネラー 近藤駿介(東京大学)、末次克彦(日経新聞)他数名を交渉中

2. 第4回研究発表会の日程と企画テーマの募集について

1991年度の学会研究発表会を下記の日程で行うことになりました。事務局では年会の企画テーマを募集します。企画セッションのテーマ、趣旨、発表予定者をA4用紙1枚にまとめて事務局までお寄せ下さい。(締切 3月末日)

日時: 1991年11月29日(金)-30日(土)

場所: 東京(適当な会場を探しています)